

H28.6.21



二つ橋スカイツリーレター No.42



横浜市立二つ橋高等特別支援学校 連携支援部

梅雨空の合間の太陽がまぶしく輝いています。屋上のプールでは、水泳学習も始まりました。本格的な夏の到来が待ち遠しいですね。

3年生の生徒の多くは4週間の現場実習から戻ってきました。「学校に来るのが楽しかったです」「学校に来て友達顔をみたらホッとしました」と話すその表情から、長い実習をやりきった自信が伝わりました。

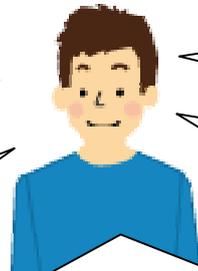
さてスカイツリーレターNo.42では、『支援要請』についてお話します。

皆さんは、自分の思いを上手に相手に伝えられますか？

自分のことを他の人にわかりやすく説明できますか？

私はこんなことをしたい
とおもっています。

ここまではわかりますが、
この後がわからないので教えてください。



私はこういうことはイヤです。

〇〇〇は苦手ですが、
◆◆◆ならやれます。

あなたがこういうことをしてくれると
私はうれしいです。

など

「自分が考えていることはあるけれども、どのように説明したらいいか、わからない」という人もいることでしょう。とにかく練習が大切。回数を重ねるごとに伝え方は上達していきます。

「自分はしっかり伝えつもりだったけれども、相手にわかってもらえなかった」ということもあるかもしれません。そんなときは、怒ったり落ち込んだりするのではなく、違うやり方で説明して、相手にわかってもらえるようにしたいものです。

せんじつ ねんせい そうごう がくしゅう れんけいしえんぶ はなし
先日、3年生の総合の学習で、連携支援部からこんな話をしました。

人に支援してもらうことは、とって頭を使うことです。

- ・どんな時にどんなことを頼めばいいのか？
- ・どういうふうに頼めばうまくいくのか？



支援を受けることに習熟するということは、それ自体、大切な生活力の向上になります。



人に頼むのは悪いなどとは思わず、**必要ならば、積極的に人の支援を受ける経験**をしてほしいと思います。

あいて ともだち かぞく せんせい じっしゅうさき かた とうぜん
相手が友達の時、家族の時、先生の時、実習先の方の時など、当然のことながら相手によって伝える内容や説明の仕方がわかり、ほしい支援もかわってくるでしょう。卒業後の生活のことを視野に入れると、1年生のときから、次のような内容を自分で説明できるようにしておくとうれしいと思います。

計画相談 ~セルフケアプラン~

- 今の暮らし
- これからの暮らし
- 困っていること・気になること
- 私が希望する暮らし
- 家族の希望



これは、計画相談支援（サービス等利用計画）のセルフケアプラン作成の際、記入する項目です。ご覧のとおり「◎家族の希望」の記入欄もあります。日頃から家族と将来のことを話し合っておくことが大切です。

ねんせい
3年生は、6/30（木） 7/5（火） 7/7（木） 7/8（金）の午後、『ケースワーカー面談』があります。18歳になると、一人ひとりに区の障害担当のケースワーカーがつくことになっています。担当ケースワーカーは一人ひとり異なります。在住区の福祉保健センターからケースワーカーに來校していただき、学校で面談するのです。

もくてき かおあ じっしゅう しょうらい せいかつ おも
目的は、顔合わせと、実習のことや将来の生活についてどのように思っているかなど、あなたの考えを伝えることです。面談時に**私が希望する暮らし、家族の希望**などを自分の言葉で伝えられるように、準備をしっかりとっておきましょう。ケースワーカーは卒業後の皆さんの強い味方になってくれる人です。笑顔も大切にしながら、自分のことをしっかりと説明できるといいですね！